



目次

はじめに

I 宣戦布告なき原子戦争……………3

——絶滅戦争突発の危険が増大している——

三十七日間戦争……………4

第三次大戦はこうして起った……………7

大戦小説も一変した……………9

米戦略空軍の緊急態勢をもたらした「危機」……………12

原水爆バトロールの危険性……………14

核爆弾は誤投では爆発しないのか……………16

米水爆機の北極圏飛行……………23

米空軍の「絶対安全」計画……………29

欲しない戦争の危険……………31

II 危険をふくむ限定核戦争の戦略……………35

限定核戦争論の登場……………37

大量報復政策の破綻……………38

限定戦争の二つの道……………42

限定核戦争の技術的前提……………44

限定核戦争は可能であるか……………46

限定核戦争のルール……………50

限定核戦争論の危険性……………52

III 宇宙兵器 I C B M……………57

大陸間弾道弾登場の軍事的意義……………57

ソ連の I C B M 実験成功……………61

人工衛星と大陸間弾道弾……………64

ソ連の I C B M は米ソの力関係を変えた……………70

IV ソ連の弾道弾を追いかけるアメリカ……………81

「ロックフェラー報告」が見た米ソの軍事力動向……………81

アメリカ弾道弾開発の立ち遅れ……………86

究極兵器の防御はできるか……………95

ICBM、奇襲、軍縮……………101

V 原水爆の実験停止 (1)……………105

——ソ連の一方的停止を中心にして——

ソ連の一方的実験停止……………107

ソ連はなぜ一方的に停止したのか……………110

実験停止はソ連にも積極的利益……………116

米英側の反応……………119

VI 原水爆の実験停止 (2)……………125

——きれいな水爆、実験探知をめぐる論争——

実験停止とアメリカ	125
軍事的立場からの実験停止反対論	127
きれいな水爆をめぐる科学論争	129
きれいな水爆も汚い	132
核実験探知をめぐる論争	135
地下爆発の探知はできるか	138
実験探知の技術的基礎	139
問題は監視所の密度	142
ソ連は査察に応ずるか	143
キリアンIIベーター報告	145
英仏の態度がもう一つの壁	149
<b>VII 核武装禁止地帯案の登場</b>	<b>153</b>
IRBMの基地設置をねらわれる欧州	153
核武装禁止地帯提案の波及	155

IX

軍縮と査察管理

南朝鮮の核武装問題	215
核兵器持込み禁止と安保条約の改正	210
日本の核兵器持込み反対と自衛隊の進路	199
米国防ニュー・ルック政策進展の波紋	192
英国民の不安と抵抗	189
英、IRBMの基地を許す	184

VIII

核兵器持込みの要求と日本

ラバツキー提案とは	161
核武装禁止地帯案に対する欧米側の態度	164
西ドイツの核武装決定	169
盛り上げる原爆死反対の声	173
西ドイツの核武装はだれのためのものか	177

軍縮を困難にしている諸要因	219
軍縮問題はどうか変貌したか	226
軍縮に関する西欧側の考え方	234
アメリカの実験停止案	237
空中からの軍備査察案	241
双方の提案とその基礎	249

## X 原子力時代の国際平和

253

恐竜と人間とのちがい	254
エネルギー資源としての原子力の役割	258
危機の根源は二つの体制の対立と不信	260
「力の論理」はもう時代おくれ	264
ソ連の科学的挑戦の底にあるもの	270
新しい歴史の頁を開くために	276

装幀・難波田 竜起

